

青少年 はちのへ



かがみ

青少年健全育成シンボルマーク



【発行】 第84号

八戸市教育委員会教育指導課

八戸市内丸一丁目1-1

Tel 43-2111(内577)

Fax 47-4997

Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp

平成26年11月14日号

## 家庭で育む子どもの自尊感情

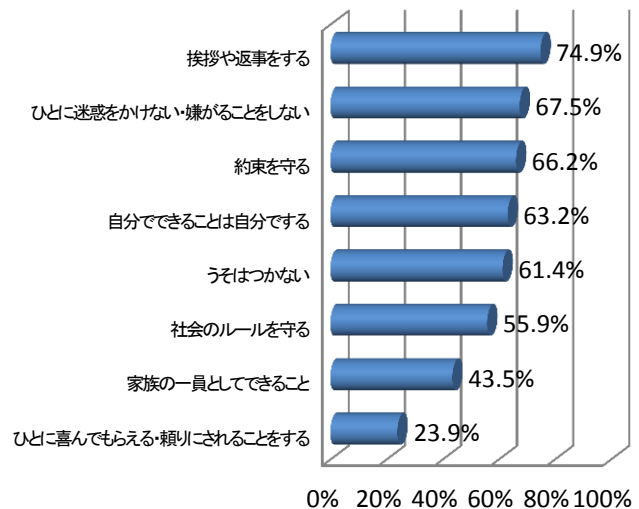
自尊感情とは、自分にはこの世に存在する価値があり、自分のことをかけがいのない存在と思える感情のことです。社会に貢献できる人間を育てるためには、社会性を高めていくとともに、自尊感情を育むことが大切だといわれています。

右のグラフは、公益社団法人日本PTA全国協議会が平成26年3月に発行した「教育に関する保護者の意識調査報告書」の抜粋です。調査対象は、小学5年生保護者と中学2年生保護者です。「あなたの家庭では子どもに対して次のことを普段から口に出して教えていますか。」という設問です。

社会性を高めていくことにつながる「挨拶や返事をする」、「ひとに迷惑をかけない・嫌がることをしない」、「約束を守る」という項目については、多くの家庭で実践されているようです。しかし、自尊感情を育むことにつながる「ひとに喜んでもらえる・頼りにされることをする」、「家族の一員としてできることをする」が低い結果となっています。子どもが社会に大きく貢献できる大人へと成長していく上で、自尊感情を高めていくことも、家庭での大きな役割といえます。自尊感情を育むために、家庭での会話の中で、人に喜んでもらえることや家族の一員としてできることを進んで行う大切さを教え、実行できたときにはその行いをおおいに認めていきましょう。

ここで、文部科学省と公益社団法人日本PTA全国協議会との共催により募集した「平成25年度 親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」に関する三行詩の優秀作品を紹介します。

普段からいつも口に出して教えている家庭の割合



### 「親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」三行詩 優秀作品

かえったら  
なにからはなそう  
きょうのこと

(小学校の部:佐藤 祐明/東京都)

反抗期、楽しまないでよ お母さん。  
反抗する気  
なくなるじゃん

(中学生の部:吉武 佳音/茨城県)

見ざる 聞かざる 言わざる  
いえいえ 我家は  
見るぞう 聞くぞう 話し合うぞう!!

(一般の部:中井 みどり/広島県)

おふろだと  
いっぱいはなせる  
はだかんぼなきもち

(小学校の部:須藤 凜/秋田県)

「がんばれ」じゃなくて  
「がんばった」をくれる  
温かい笑顔のおじいちゃん

(中学生の部:鈴木 瑠衣/福島県)

頑張らないと腹をたて、頑張りすぎると心配に。  
「ちょうどいい！」ってどこだろう？  
答え探しに悩み楽しみ毎日子育て親育つ。

(一般の部:木戸 理恵/愛知県)

# 温かい地域に支えられ、今年もグッジョブウィーク

今年で15年目となる「さわやか 八戸 グッジョブウィーク」が、中学2年生を対象に市内公立の全中学校で実施され、およそ2,300名が参加しています。数日間の職場体験や福祉・ボランティア体験から、豊かな感性や創造性とともに自律性を高め、自分の生き方を見つけていくことを目的としています。

「地域の子どもは地域で育てる」という視点で展開されるこの事業は、学校・家庭・地域社会の三者がそれぞれの役割を明確にし、準備段階からの連携が不可欠となります。毎年、地域の方々の温かい御理解と御協力をいただき、深く感謝いたします。

幼稚園でグッジョブウィークを体験した生徒の感想文を紹介します。

## 『グッジョブで見つけた課題』 八戸市立大館中学校2年 貴田 涼華

私は、グッジョブ・ウィークで幼稚園に行ってきました。私には、歳の離れた弟がいます。弟が生まれ、小さな子どものかわいさに感動してから、私はずっと幼稚園の先生になることを夢見てきました。小学生の頃から、弟の世話をしてきたので、小さな子の面倒をみることは慣れていました。私は、このグッジョブ・ウィークでもスムーズに仕事ができるだろうと思っていました。

しかし、実際に行ってみると、想像していた以上に働くことは大変だということに気づかされました。そして、自分の足りないものを実感させられたのです。

自分に足りないもの、それは「積極性」です。自分から声をかけることができず、最初、恥ずかしくて、なかなか子どもたちの中に入ることができませんでした。逆に、子どもたちの方から、私の所へ寄ってきてくれました。何をしたいのかわからず、聞くこともできず、先生方から何度も注意をされました。先生方に指示されないと動くことができない私は、自然と笑顔をなくしていきました。

(これが私がやりたかった仕事なのだろうか。あんなにあこがれていた先生なのに。)

納得できる行動ができないまま迎えた三日目。私は、

「このままの気持ちでグッジョブを終わらせたくない。自分から行動しよう。」

と決意しました。

「一緒に遊ぼう！」

「手伝います！」

と、自分から誘い、自分から動くように心がけました。これまでの反省を振り返り、私なりの努力をしました。笑顔の子どもたちとのふれあう中で、自然に笑顔が出ました。もっと一緒にいたいと心から思いました。園長先生がおっしゃった、

「幼稚園は、子どもだけが成長する場所ではありません。子どもの成長と一緒に私たちも成長する場所なのです。」

この言葉の意味が、少しわかったような気がします。

たくさんの個性あふれる子どもたちと過ごした3日間は、職場でのマナーはもちろん、人に対する気遣いなど、たくさんのお話を学ぶことができました。「当たりまえ」のことだと思っていたあいさつや返事などの大切さを改めて感じました。

このグッジョブ・ウィークという貴重な時間に、私はやり遂げた達成感や働くことの楽しさを実感することができました。そして、「幼稚園の先生になりたい。」という思いはいつそう強くなりました。この体験をこれからの学校生活に生かし、さらに自分の成長につなげていきたいと思えます。



〔写真は、大館中学校と白山台中学校の今年度の活動のようすです〕